

14

ハマービー・ショースタッド

—— ストックホルム、スウェーデン
1994年～

統合的都市開発アプローチと循環型都市環境システムによる
環境先進都市の開発

Key Issue

対象事例は、都心に隣接する臨海地区においてブラウンフィールド型の都市開発によって作られた環境先進都市（エコシティ）である。この地域は、従前は荒廃した工業地帯であり環境汚染が問題となっていたが、ストックホルム市のオリンピックの招致に向けた選手村予定地となったことを契機に、環境に配慮した持続可能な都市づくりが計画された。「1990年代初めの国の標準に対して環境負荷を半減させる」という大胆な環境目標のもと、総合的な開発が求められた。

Project Approach

循環型都市環境システムによる持続可能な都市づくり

家庭から排出される生活ごみや汚水を、熱・電力エネルギーとして再利用する循環型都市環境システム（ハマービーモデル）を導入することで、環境負荷の低い持続可能な都市づくりを実現した。廃棄物管理においては、先進的環境技術である自動廃棄物収集システムを都市の地下空間に導入することで、地下のパイプラインを通じた効率的な廃棄物管理と地上にごみのない美しい街並みの形成を可能とした。

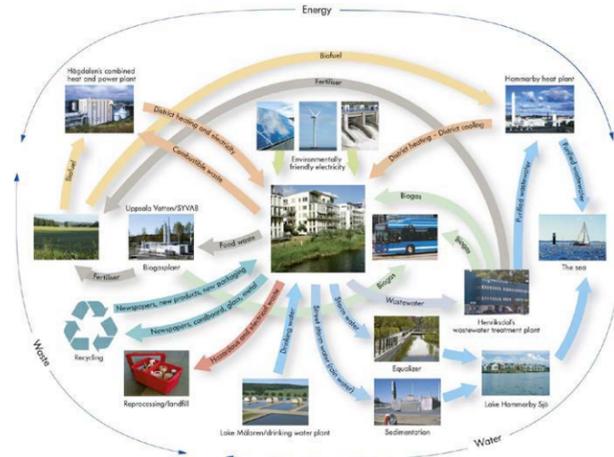
開発敷地を複数の地区に分割し、地区ごとに設計者や開発事業者を選定し、ゾーン毎の統一感を確保している。住宅地域、オフィスはゾーニングされているが、まちの賑わいを醸し出すための複合用途化が図られている。
写真：Ola Ericson
出典：imagebank.sweden.se



自動廃棄物収集システム 概念図
地下に繋がる分別用ごみ箱がマンションや住宅の中庭に取り付けられており、分別されたゴミがコンピュータ制御によって定期的に地下のパイプラインを通して、処理場に運搬される。
出典：City of Stockholm

市主導による統合的な都市開発アプローチ

プロジェクト管理においては、環境に対する負荷を総合的に軽減した都市を構築するために、計画全体を推進する都市計画局と道路・不動産局、開発を実行するデベロッパー等の民間事業者、その他インフラ関連の行政部局で構成される部門を超えたプロジェクトチームが設置された。プロジェクト各段階での円滑な問題解決によって、マスタープランに基づく統合的な都市開発が効果的に推進された。



ハマービー・モデル 概念図
下水汚泥や生ごみから発生させたバイオガスが家庭用燃料として再利用されている。バイオガスの多くは公共交通や燃料電池の燃料としても活用されている。
出典：City of Stockholm

Data

面積	200ha (うち50haは水域)
事業主体	ストックホルム市ほか
計画戸数	12,000戸
計画人口	35,000人(通勤者含む)
主な導入施設	交通系：路面電車網、フェリー、カープール エネルギー系：熱プラント・発電所 上下水系：污水処理施設 廃棄物系：自動廃棄物収集システム、廃棄物収集ステーション

To the Next Phase

ストックホルム市は、本プロジェクトで得た経験を基に、新たなエコシティ開発を展開している。2008年から始まったロイヤルシーポート地区の開発（面積：236ha、計画戸数：12,000戸）では、脱化石燃料とウォークアブルシティをコンセプトにして、プラスエネジー住宅（住宅で使用する以上のエネルギーを生産する住宅）や、防災や都市温暖化対策に役立つグリーンインフラストラクチャー（公園、中庭、緑道等）の導入が進められている。

